国立大学法人佐賀大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

佐賀大学は、これまでに培われた諸分野にわたる教育研究を礎にし、地域の中核大学として特色を活かし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学を目指し、「佐賀大学憲章」を制定するなど、法人運営の活性化に向けた取組が行われている。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、学生の意見を活用し、学部・学科等の教育組織による授業点検・評価を行うなどの教育改善を立案する PDCA サイクルの創設、専門科目を教養科目として履修できる「学内開放科目制度」の新設等のカリキュラム改善、学生の学習環境の整備充実、学習相談・助言体制の強化や生活支援、ネットワークを駆使した教育インフラストラクチャの整備等の取組を行っている。

研究については、医文理融合等の学部横断的な重点プロジェクトの実施、有明海総合研究プロジェクトや海洋エネルギー研究等地域と密着した重点研究の推進等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、地域貢献推進室、産学官連携推進機構の設置による地域産業・自治体との技術交流等の推進、社会人のリカレント教育や生涯教育及び初等・中等教育への支援体制の整備等の取組を行っている。

業務運営については、事務業務及び事務組織の改善を図るため、新たに業務改善等の検討会議を立ち上げ、業務組織のフラット化等の整備計画をまとめており、今後の成果が期待される。

財務内容については、競争的資金の獲得のため、競争的資金対策室において全学的な資金獲得体制を整備するとともに、様々な競争的資金の公募内容やリンク先等の概要を学内の研究者に電子メールを配信するなどの取組を行っており、今後の成果が期待される。

情報提供については、外部資金獲得状況、財務情報、自己点検・評価等の情報や入学・就職等の基本情報について、ウェブサイト等を通じて迅速に発信し、情報公開の促進を図っている。

２　項目別評価

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、２項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、４項目が「良好」、５項目が「おおむね良好」、１項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（９項目）のうち、２項目が「良好」、７項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（９項目）のうち、３項目が「良好」、６項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

（4）学生への支援に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、２項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「高等教育開発センターの３部門（教養教育部門、企画開発部門、教育支援・教育評価部門）を充実し、これらを中核として教育改革を推進する」について、高等教育開発センターの３部門の活動を平成 16 年４月から開始し、その後、「修学支援」「教育支援」「企画評価」「教育開発」の４部門に再編して充実を図り、各部門長が大学教育委員会及び関連の専門委員会に参加する体制を整備し、佐賀大学の教育改革を推進する中核として機能を発揮するなどの取組により、佐賀で学ぶ学生のアイデンティティーを高め地域社会を理解し豊かな感性を養うためのカリキュラムが整備されており、また学生による授業評価の集計結果から、学生の課題探求と問題解決力が養われていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「教育関連委員会と高等教育開発センターが連携して、全学的に教育改善を推進する」について、学生の意見を活用し、学部・学科等の教育組織による授業点検・評価を行うなどして、教育改善を立案する PDCA サイクルを立ち上げ機能していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「技術職員を教育支援担当者と位置づけて教育組織に組み込む」について、45 名の技術職員を教育支援者として教育活動にあたらせていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「講義関連施設の現況、利用状況、教育機器類の充実度に関する調査結果に基づき、講義室、実験・実習室、演習室、体育・スポーツ施設等の改修や教育機器類の整備計画を策定し、実現を目指す」について、医学部会館の改修に伴い、プロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）室の増設などにより、快適な学習・研究環境が整備されており、学生に対するアンケートからも満足度が上昇し、利用者数も増加していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「オフィスアワーを少なくとも週１日２時間程度確保し、シラバスに明記する」及び「学生からの情報収集（学生モニター制の導入や専任教員の配置等）を行う」について、学長をはじめとする執行部によるオフィスアワーの実施及び「どがんね、こがんよ、学生懇談会」の開催、「学生なんでも相談窓口」や「学生の声　VOICE」等、学習相談・助言体制の強化や生活支援の取組を行っていることは、優れていると判断される。

（改善を要する点）

○　中期計画「海外の大学との学生交流や国際学会・研究会、学術調査等への積極的参加及び研究成果の発表を促し、そのための支援体制を整える」について、ライフサイエンスや文化系の取組についての自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められないことから、改善することが望まれる。
○　中期計画「試験問題と模範解答（解答例）、解説、配点等の公開を全学的に進める」について、模範解答の公示が少なく透明性に欠けることから、改善することが望まれる。

（特色ある点）
○　中期計画「アジア系言語の履修機会を拡大する」について、アジア諸国との国際交流を重視し、アジア系言語の履修機会を拡大していることは、特色ある取組であると判断される。
○　中期計画「教養教育は全学年を通じて行う」及び「専門教育は１年次から導入する」について、教養教育と専門教育を平行して教授しており、専門科目を教養科目として履修できる「学内開放科目制度」は、特色ある取組であると判断される。
○　中期計画「PBL（問題立脚型）学習システム、インターネットを利用した教育法等の導入により、授業内容に応じた教育方法を推進する」について、医学部の PBL 学習システムは学生による授業評価から満足度は高く、特色ある取組であると判断される。
○　中期計画「外国人留学生をティーチング・アシスタントとして採用し、少人数グループ・チュートリアル形式の外国語学習時間を設ける」について、留学生を外国語学習のティーチング・アシスタント（TA）として採用し、また、留学生を講師とした語学講座等を開催していることは、特色ある取組であると判断される。
○　中期計画「インターネット講義の開発研究を進め、教養教育科目を中心に拡大する」について、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、e-learning を利活用したインターネット授業、ラーニング・マネジメント・システム（LMS）による学習指導方法の研究開発を積極的に進めていることは、特色ある取組であると判断される。
○　中期計画「社会人学生のための受入環境を整備する」について、社会人大学院生の臨床教育実習の試行は、特色ある取組であると判断される。

（II）研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

（2）研究実施体制等の整備に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11 項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、３項目が「良好」、７項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）
○　中期計画「目指すべき研究の方向性を教育研究評議会で検討し、重点研究を推進する」について、重点研究の方向性を検討し重点研究を推進するなどして、海洋エネルギー研究センターが全国共同利用機関となっていること及びシンクロトロン光利用の研究がこの分野の中心的存在となっていることは、優れていると判断される。
○　中期計画「基礎的・基盤的研究の充実に加えて、学際的新研究や重点的研究を定め、戦略的に研究体制を整備する」について、学部横断的な重点プロジェクト、特に医文理融合による取組を実施し、概算要求等競争的資金を多数獲得していることは、優れていると判断される。
○　中期計画「重点的なプロジェクト研究に対して、研究者の配置を柔軟に行う」について、研究センターや重点研究プロジェクトの支援体制を整備し、学長のリーダーシップによる重点研究分野の選択、重点的人員配置等、教育研究の目標に沿って機能していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）
○　中期計画「統合して５学部（文化教育、経済、医、理工、農）になったメリットを活かして、学部横断的研究プロジェクトを構築する」について、共同研究体制が構築されており、有明海総合研究プロジェクト、海洋エネルギー研究等地域と密着した重点研究として活動していることは、特色ある取組であると判断される。
○　中期計画「評価に基づき、インセンティブを付与する方法を確立する」について、学内措置として、科学研究費補助金の応募申請で惜しくも不採択になった者に対して、

一定条件のもとで研究費を付与する「奨励研究費」の制度は、特色ある取組であると判断される。

（III）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である
【判断理由】「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況が良好である
［判断理由］「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11 項目）のうち、３項目が「非常に優れている」、３項目が「良好」、５項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）
○　中期計画「佐賀地域産学官連携推進協議会、地域貢献連絡協議会等を通して、地域社会と連携・協力を推進する」について、地域貢献推進室、産学官連携推進機構を設置して地域自治体等との交流を活発に行い、佐賀大学が保有する特許及び技術シーズの公開を通じて地域産業・自治体と技術交流を行うなど、地域に強く目を向けた多様な社会貢献を行っていることは、優れていると判断される。
○　中期計画「英語版のホームページを充実し、優秀な留学生の確保・受入に努める」について、英語版のウェブサイトを充実し、入試手続き、奨学金、ガイドブック等の受入れ体制の情報を掲載するなど、留学生の確保・受入れに努めたことは、留学生数の増加につながった点で、優れていると判断される。

（特色ある点）
○　中期計画「市民への情報サービスを向上させる」について、社会人のリカレント教育や生涯教育及び初等・中等教育への支援体制を整備し協力を行っていることは、特

色ある取組であると判断される。

（２）附属病院に関する目標

地方大学で臨床研修医が減少している中で、学生・研修医へのアンケート、指導医からの意見聴取、課題を報告書にまとめるなど、きめ細かい努力を行い、研修医の増加へつなげている。また、「有明海総合研究プロジェクト」において、地域の 12 医療機関と共同研究を推進している。さらに、救急救命センターやハートセンターを開設するなど、佐賀地域の救急医療体制の機能充実に貢献している。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　教育・研究面
- 　文部科学省事業に採択された「県民医療アカデミーオブ e-JAPAN」を通じた地域医療教育の推進、また臨床研修においても、カウンセラーを配置して研修医のメンタルケアにきめ細かく対応し、研修医が抱える問題点を指導医にフィードバックするなど、教育環境の充実を図っている。
- 　遺伝子診断、再生医療等を推進しており、Beckwith-Wiedemann 症候群の遺伝子診断症例数は全国トップであり、この他、3T MRI による心血管病診断法の開発、難治性完全脱臼股関節に対する手術法の考案等、先端的臨床研究を推進している。

○　診療面
- 　院内に感染症治療専門チーム・褥瘡対策チーム・緩和ケアチーム・栄養サポートチーム等を設置、専任教員・看護師・関連診療科での横断的診療体制を整備して、質の高い医療支援を実施している。
- 　外来化学療法において、プロトコール審査委員会を設置し、管理の徹底、治療後のフォローアップ体制等の充実を図り、化学療法件数を増加させている。

○　運営面
- 　病院経営の効率化を図るために、経営戦略コンサルティング会社との合同プロジェクトを発足させ、収支分析結果をコスト削減に反映させる体制を整えている。
- 　医療材料等において、部署単位での規格統一化に取り組み、非効率的な医薬品リストを基にして 25 品目を削減している。

（３）附属学校に関する目標

附属学校は、附属学校園における教育の実践及び実践的研究の質の向上と教育実習の充実を目指しており、適切な組織体制の整備が図られている。

学部に所属する教職科目の担当教員と附属学校教員が学部・附属学校間で相互に教育実践を行い、授業実践、教育実習及び教職員研修の効果的方法を研究する体制を整備している。

また、教育実習を通した教育研究における理論と実践の接続の強化を図るため、附属

学校における高度教育実習を全教科について実施するなど、附属学校を活用した教育実習の改善が図られている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　共同研究テーマ「学びをひらく教育の創造」を定め、全教科において附属学校教員と学部の学校教育課程に所属する教員が教科ごとのサブテーマを設定し、公開研究発表会（平成 16 年度から 18 年度において延べ 100 件）、校内全体研究会（平成 16 年度から 18 年度において延べ 91 件）を開催している。
○　学部及び附属学校園による共同研究の成果を、附属学校園教員が「教科教育法」及び「実践授業研究」等の大学の授業を担当してフィードバックするとともに、共同研究に資する教育情報を授業を通して収集する循環的な授業実践の質的充実策について提案し、その内容を学部附属共同研究推進委員会規程及び共同研究実施要領に定めている。

（Ⅳ）定員超過の状況
○　平成 19 年度において、経済学研究科の定員超過率が 130 %を上回っていることから、今後、入学定員の見直しを含め定員超過の改善に努めることが求められる。

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標
①　運営体制の改善
②　教育研究組織の見直し
③　人事の適正化
④　事務等の効率化・合理化

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　教職員の人事評価システムについては、すべての教職員を対象に人事評価の試行を行い、検討課題を確認するとともに、各部局の意見を聴取し、必要に応じてシステムの見直しを行っており、平成 20 年度の本格実施に向けて準備が進められている。今後、本格実施と処遇への反映につなげていくことが期待される。
○　大学憲章に沿った将来の目指すべき大学像「佐賀大学中長期ビジョン」を策定し、各学部において、「佐賀大学中長期ビジョン」の策定に並行して、佐賀大学の目指すべき教育研究体制の構想に沿って検討を進め、10 年後の各学部の将来構想をまとめている。
○　事務業務及び事務組織の改善を図るため、新たに業務改善等検討会議を立ち上げ、縦割りの「係体制」の廃止による業務組織のフラット化等、事務組織の整備計画をまとめており、今後の成果が期待される。
○　産学官連携を推進するため、科学技術共同開発センター、佐賀大学 TLO 及び知的財産管理室が実施してきた業務を一体化させ産学官連携推進機構を設置し、知的財産の創出、管理及び技術移転等を効率的に行っている。
○　全国共同利用を推進するため、海洋エネルギー研究センターを平成 19 年度から新たに全国共同利用の研究施設とし、学長裁量定員の配置や学長経費「大学改革推進経費」の重点配分を行っている。
○　医文理融合型の研究科及び社会科学系の博士課程の設置について、工学系研究科の博士課程改組を含め、中期目標の達成に向けて教育・研究組織及び教育課程に関する着実な取組が期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 43 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標
①　外部研究資金その他の自己収入の増加
②　経費の抑制
③　資産の運用管理の改善

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　提案公募型の受託研究への応募を支援するため、全国各地の提案公募型受託研究費に関する情報収集を行い、周知するとともに、共同研究等による外部資金の獲得増を図るため、自治体との相互協定の締結を促進するなどの取組を行った結果、受託研究、共同研究及び寄附金による外部資金は、平成 19 年度で 10 億 8,924 万円（対平成 16 年度比 1 億 5,045 万円増）と増加しており、外部資金比率は 4.2 ％（対平成 16 年度比 1.5 ％増）となっている。
○　競争的資金への申請を促進するため、競争的資金対策室において、全学的な資金獲得体制を整備するとともに、様々な競争的資金の公募内容やリンク先等の概要を「競争的資金対策室公募情報」として学内の研究者に電子メールを配信するなどの取組が行われている。
○　光熱水料等の経費削減が可能な経費について削減目標を設定し取り組んだ結果、平成 19 年度は、平成 15 年度と比較して電気料 20.4 ％減、上下水道料 31.8 ％減及び刊行物 63.3%減となっている。
○　中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 7 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
①　評価の充実
②　情報公開等の推進

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　「研究成果閲覧コーナー」を附属図書館内に設置するとともに、研究論文、博士論文、シンポジウム記録、特許記録等佐賀大学における知的情報を整え、公開するとともにウェブサイトでも公開している。
○　定例記者会見を毎月 1 回開催するとともに、広報誌を県内郵便局や銀行支店へ配布するなど、大学の教育研究活動情報の積極的な公開に取り組んでいる。
○　外部資金獲得状況、財務情報、自己点検・評価等の情報や入学・就職等の基本情報について、ウェブサイト等を通して迅速に発信し、情報公開の促進を図っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 7 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標
① 施設設備の整備・活用等
② 安全管理

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 施設データベースを構築して、施設管理台帳、施設整備状況図及び経年別建物配置図等を作成し、施設維持管理計画を策定するとともに、施設管理台帳を基に、全学の機器等の更新年次計画を作成している。
○ 施設等の有効活用を図るため「佐賀大学における施設等の有効活用に関する指針」を策定し、確保した共同利用スペースを学内公募により研究スペースとして提供している。
○ 「佐賀大学情報セキュリティ対策及び不正アクセス防止に関する規程」及び「佐賀大学キャンパス情報ネットワークへの端末設置規程」を策定している。
○ 災害に適切に対応するため、「佐賀大学災害対策要項」、「佐賀大学災害対策マニュアル」及び「災害対策ノート」を策定し、全学に周知するとともに、「災害発生時の緊急連絡網チャート」を整備している。
○ 研究費の不正使用防止のため、平成 18 年度に制定した研究費不正使用防止規則の運用をさらに徹底し、研究費不正防止計画及び研究費不正防止計画運用ガイドラインの策定、研究費不正防止計画推進委員会の設置、研究費不正使用防止責任体系図の作成等、体制、ルールの整備を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 14 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	文化教育学部	教育 1-1
2.	教育学研究科	教育 2-1
3.	経済学部	教育 3-1
4.	経済学研究科	教育 4-1
5.	医学部	教育 5-1
6.	医学系研究科	教育 6-1
7.	理工学部	教育 7-1
8.	工学系研究科	教育 8-1
9.	農学部	教育 9-1
10.	農学研究科	教育 10-1

文化教育学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 1-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 1-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学部内に 4 課程・12 選修を設置し、設置基準に準拠して配置された 10 講座及び 1 センターの専任教員に加えて、学内・学外兼務教員が必要に応じて各選修の教育を担当する体制を整備するとともに、課程編成についても社会的要請に応じた見直しが図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を中心に教員のための研修会･講演会を継続的に計画するとともに、授業評価アンケートを実施し、各教員がその結果を基に授業改善のための報告書を作成していることが示すように、教育内容・方法の改善を組織的に推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文化教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、文化教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、「大学入門科目」「共通基礎科目」「主題科目」によって構成される教養教育科目と、「専門基礎科目」「専門科目」からなる専門教育科目が有機的に連関するように、各課程・選修の特性に応じた履修モデルが提示され、「総合知」を育成するための教育課程が体系的に編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他大学・他学部との単位互換制度、交換留学や海外研修のプログラム、キャリア教育等の推進とともに、転学部・転課程等の制度並びに科目等履修生や研究生等の受入れ体制も整備されており、学生と社会からの要請に応えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断され

る。

以上の点について、文化教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、文化教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義のほかに、演習・実験・実技・実習が、各課程・選修の特性に応じて設定されていることで、学習効果と学習への意識を高める枠組みが確保されているとともに、シラバスの有効活用や実技・実習的科目へのティーチング・アシスタント(TA)採用等によって、学習指導法改善等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、入学時における各選修の履修モデルの提示、その後の合宿ゼミや学外での合同クラスレッスンの開催・ボランティア活動への誘い等の主体的学習を促す様々な取組に加えて、学習の質を重視するために、各学期の上限履修単位の設定や、自習を支援するためのスペースや情報機器の整備にも力を入れているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文化教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、文化教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学校教育以外の課程においても各種教員免許が取得され、さらに学芸員資格・社会福祉士資格等の取得状況も良好であることに加えて、教育ボランティアやスポーツ・芸術活動実績にも注目すべきものがあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 19 年度の専門科目の満足度調査では、専門基礎科目・専門必修科目・専門選択科目ともに、中ほどの評価から高評価のものが多数であるだけでなく、前年度比でも満足度の向上が認められるなどの相応な成果があ

ることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文化教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、文化教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、教員採用数並びに企業からの求人を多く見込めない地域的条件の中で、平成 18 年度のデータでは、学部全体の就職希望者の 88.8%（166 名）が就職し、さらに 31 名が進学しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先アンケートに対する企業からの回答のほとんどが「満足」もしくはそれに近いものであること、また学校現場からの回答も、学級経営能力・生徒指導能力という経験を要する項目以外の４項目にはほぼ満足に近い評価を示していること、さらに学習満足度についての卒業予定者からの回答も大半は肯定的であることから、一定の評価を受けているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文化教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、文化教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 2-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 2-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、幼児・児童・生徒らの教育的課題全体に関わる学校教育専攻と、各教科の内容と方法を研究する教科教育専攻を設け、教員を適正に配置して、現代の困難な教育問題に対応しうる人材を育成するための体制が整えられているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容・方法の改善を進める体制が整えられており、授業評価の実施と各教員がそれを基に授業点検・評価書を作成しウェブサイト上に公表していく取組や、ファカルティ・ディベロップメント(FD)講演会・新任教員研修等を通して改善が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、各種の専修免許状と学校心理士の資格取得を可能とするための科目群が適正に設定されている一方、各コース・専修ごとの分野概要が示すように、各専門領域の履修・研究の枠組みが適切に組まれていることに加えて、各科目の詳細なシラバスを作成・公表し、それぞれの院生の科目選択が適切に行えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学内・学外の他研究科での受講・指導を可能とする制度と、定員の３分の１程度を現職教員と留学生の枠とする体制の推進、さらに科目等履修生・研究生並びに外国人のための特別聴講生・特別研究生制度や、大学院への転入学・再入学制度の整備等に、社会的要請に対する柔軟な姿勢と積極性が示されており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、実践探求力の形成を目指す新たな教育実習と、佐賀県教育委員会・医学部附属病院との連携による臨床教育実習の推進を中心に、従来の講義・演習に偏した授業形態の改善を進めるとともに、学生ごとの個別の履修計画と研究計画に基づいた具体的な指導、並びにティーチング・アシスタント(TA)制度の活用を通して、主体的な研究能力と実際的な教育能力の形成を促すなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、主体的な学習の重要性について入学時のオリエンテーションで明確に伝えるとともに、その後の個別指導・グループ指導、さらに学内・外の研究発表会・学会の活用等を通して主体的な学習を促す一方、各専攻・専修では院生控え室を整備し、良好な学習環境の実現に努めているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、修了状況（率）は、平成 18 年度で 88.5%（最高学年学生 52 名中 46 名）で全国平均を超える一方、取得資格については、専修免許状取得率も 55.8%（免許取得希望者比では 100%）で同様であり、ともに学力・能力面での教育成果を示すものであることに加えて、実技系学生の複数の美術団体の受賞も評価できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修了時のアンケートが示すように、専門科目に関する質問を始めとする諸項目への学生からの回答はほぼ肯定的なものであるな

どの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、教員採用数並びに企業からの求人を多く見込めない地域的条件の中で、平成 19 年度は、就職希望者の全員が就職し、４名が進学しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生の教育能力についてのアンケート調査６項目に、県内学校から高い満足度を示す回答が寄せられていることに加えて、修了予定者に「専門的な知識・技能」「コミュニケーション能力」「研究能力」等の修得度について尋ねたアンケートからも、おおむね高い満足度を読み取ることができるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 3-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 3-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、おおむね良好な教員数を配置し、グローバル化や、企業社会の変化にともなう要請へ対応する体制を整えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）をはじめとする教育課程改革に向けた努力をするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、英語運用力の向上を目指す多面的仕組みを整えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学外専門家による実践的講義やインターンシップ等を通した学生の社会への関心の喚起、聴講生・科目等履修生・研究生の受入れなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、１、２年次に少人数のゼミナールを配置するほか、実地型教育を導入しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生を経済学部地域経済研究センターが企画する「ウォッチング佐賀」等に参加させ、地域経済、地場産業、地方行政等に関する関心を引き出すほか、優秀な卒業レポートに対し学生論集に掲載の上表彰するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、資格取得等において一定の実績が見られ、学生が身につけた学力等がおおむね良好な状況にあると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業アンケートの結果では、特にゼミナールに対する評価が高く、ゼミナール重視の意図が活かされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率、就職先について地域への貢献が期待されるとともに、法科大学院への進学実績等もあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生の採用実績のある企業・団体に対するアンケート調査では、真面目さと実行力について評価され、コミュニケーション能力についても

良好な評価を得るなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。
以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は５件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 4-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 4-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員配置がおおむね良好であり、経済・経営・法学と広範な組織の展開のなかで地域との連携等について配慮するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）・アンケートを行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、開講科目数がおおむね良好な状況にあるとともに、他研究科の授業科目も一定の範囲で修了単位に含めることができ、履修科目の選択に幅を持たせているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、職業を持つ者が勤務を続けながら通学できる昼夜開講制、修了後の進路を想定した履修モデル、留学生のための英語コースの開設等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態の柔軟な組み合わせ、研究指導計画の明確化等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、地域社会との交流、国際学術交流に参加するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位取得状況が一定水準にあり、学生が身につけた学力等はおおむね良好な状況にあると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、博士課程への進学状況が一定水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、博士後期課程進学の他に、金融機関、証券会社、民間研究所等に就職するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生の勤務先へのアンケート調査より、勤務先の評価はおおむね良好であると判断されるなどの相応な成果があることから、期待される水

準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

改善、向上しているとはいえない

当該組織から示された事例は４件であり、その中で「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例があった。

該当する事例の判断理由は以下のとおりである。

○「体系的カリキュラムの編成」については、基礎的素養の涵養、研究指導計画の策定等のために、授業科目を整備したとの記述があるが、詳細な記述がない点で、改善、向上しているとはいえないと判断される。

医学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 5-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 5-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、役割分担に基づいた教育研究グループ、大講座制、寄附講座の充実等、教員配置の合理的配分を行い、地域医療教育の充実に取り組んでいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学部教育委員会とチェアパーソン、教科主任を含めた教育実施組織の有機的結合、学生による授業評価と教員へのフィードバック、チューター制度、ファカルティ・ディベロップメント（FD）企画等着実に取り組んでいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教養、専門基礎、専門、臨床･臨地実習の有機的積み上げ、教養教育科目における選択肢の幅、専門教育科目における student doctor、 student nurse の適格審査、プロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）等着実に取り組んでいること、結果的に「良い医療人の育成」という当該医学部の目的に沿っていることが伺えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、基礎系、臨床系選択科目の編成、特に学生の希望に応じたアドバンスド選択コースが充実していること、また地域医療の重視が伺えること、さらに他学部との単位互換、ハワイ大学との相互短期留学等着実に取り組んでいることは評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、PBL の組み入れ、チュートリアルグループ学習、シラバスの活用、教科主任による統括等着実に取り組んでおり、看護学科でも同様の効果をねらった演習がなされていること、学習要項の実質化が評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、自己学習に対する時間確保と環境整備、試験期間の時期設定等工夫されており、学生の要望、期待に応えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4.　学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、最終学年学生の卒業率、医師、看護師、保健師、助産師国家試験合格率も満足すべき水準にあり、翻って進級、卒業判定も的確であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業満足度において専門課程の評価が高いことは医師養成の面から評価でき、また看護学科の学生のおおむね評価がかなり高いことも評価できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、県内を含め九州地区が約 80%を占めていること等医学科、看護学科を通じ、卒業生のかなりの部分が当該地域の地域医療に携わっていることがうかがえるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業直前アンケート、就職先関係者アンケートでそれなりの評価を受けていることは評価できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は５件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学系研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 6-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 6-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院博士課程と大学院修士課程看護学専攻では、入学者数が入学定員を大幅に下回る状況が平成 16,17 年度まであったが、平成 15 年に開設した大学院修士課程医科学専攻修了者の大学院博士課程進学や社会人の受入体制の整備等の取組により、平成 17 年度、平成 18 年度以降は、入学定員を下回る状況は解消され、入学定員と入学者数との関係の適正化が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント（FD）実施状況等、研究科委員会と教育研究実施組織が一体となって改善に取り組む体制が整備されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、体系的なカリキュラムコースが編成され、必修科目の他に専門学問分野あるいは専門医療分野の選択科目において、学生の多様なニーズに応える仕組みになっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、総合ケア科学系コース、総合支援医科学コース、がんプロフェッショナル養成コースといった新しいコースを設置し、時代の要請に応えていること、共通科目や公開授業、研修コース等様々な学習機会を提供していることは評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、実験･実習、いずれも、シラバスを含めよく考えられ整備されていること、また個別指導によるきめ細かな対策がとられていることは評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学習、論文研究等に必要な自己学習が自由にできる環境にあること、学会への参加、発表等の取組が評価できるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、適切な基準に基づいた単位の修得、修了判定、学位授与がなされており、学位論文の質も水準を満たしているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生からの評価満足度、教育効果評価、いずれも満足すべき評価がなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職希望者の就職率が 100%であること、大学院修士課程修了者の３～４割が博士課程に進学していることは評価できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、他の修了者の大半は当該大学の教員あるいは附属病院の医師･看護師として就職しており、その関係者の代表である医学部長及び病院長から評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理工学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 7-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 7-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、七つの学科、131 名の教員で構成されており、学内センターの教員が教育に参加し、学内の教育協力体制が有効に機能している。学生数に対する教員数が学科によって違いがあるが、教育には影響していないなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、授業評価アンケートにより学生の意見を汲み上げ、教員による授業改善に反映させており、ティーチング・アシスタント（TA）のきめ細かな指導、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施を通して教育の改善を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育目的に応じて教養教育科目、専門科目の設定により、教養教育と専門教育の連携と学際性を考慮して編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、JABEE プログラムの設定、教員免許状取得、留学生受入れ等、学生や社会の要請に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3.　教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態のバランスが良く、少人数教育がなされており、e-learning も活用されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスにより毎時間の課題を周知し、組織的な履修指導を行っており、自習室等も整備しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生の単位・学位取得状況は良好であり、資格取得、学会での研究発表、受賞の実績もあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による授業評価アンケートによれば、５段階評価で３以上とおおむね満足が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生（平成 18 年度）のうち約半数が大学院に進学し、その他は製造業、建設業、情報通信業等に就職している（進学・就職率 93%）。

このように、進学・就職率から教育目的に沿った教育の成果が上がっていると判断でき、半数近くが近隣地域で活躍しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先企業アンケート調査によると、専門基礎の知識や能力、実験等の基礎技術については、約 80%の企業が満足しており、82%の企業が今後も当該大学の卒業生の採用を計画しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

工学系研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 8-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 8-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院博士前期課程では、学士課程との一貫教育を保ちつつ、より高度な学術の理論及び応用に関する教育研究を行っている。大学院博士後期課程では、学際的で高度な教育を目指している。また、教員数、学生数ともに適切で、留学生、社会人も受け入れているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、すべての授業について担当教員は、学生による授業評価結果や学生の成績に基づいて、『授業点検・評価報告書』を作成し、オンラインシラバスとリンクした形で公表している。このように、学生の意見聴取を教育改善に活かしているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程では専門科目、専攻外科目、研究科共通科目を用意し、大学院博士後期課程では専門科目の他に総合セミナー等を用意し、目的に沿って体系的に編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、専門分野以外にも多彩な科目を用意し、留学生を受け入れているほか、夜間の科目を用意して社会人の要請に応えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、多様な授業形態がバランス良く配置され、少人数教育が行われ、学生のアンケートでも研究指導に満足しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスを整備し、自習スペースも十分用意しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士前期課程では、成績評価が当該研究科全体で合格率 87%（平均 GPA2.77）と高く、大学院博士後期課程では、平均合格率 90.4%で到達度は高い。また、中学校及び高等学校教諭専修免許の取得者も毎年輩出している。単位、学位取得、教員免許、学会での研究発表が順調であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大部分の科目について、「学生による授業評価アンケート」が行われているとともに、全学を対象とした「学生対象共通アンケート」も実施されている。「学生対象共通アンケート」によると、大学院博士前期課程では、基礎学力の低下を感じている学生が多いが、大学院博士後期課程では、専門必修科目及び専門選択科目共におおむね評価は高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士前期課程修了生（平成 18 年度）のうち約５％が大学院博士後期課程に進学し、その他は、製造業、建設業、情報通信業等の企業に就職している。このように、各専門分野の企業への就職は良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了予定者対象のアンケート調査では、専門必修科目及び専門選択科目の満足度はおおむね良好である。また、企業アンケートでも、専門基礎の知識や能力、また、実験などの基礎技術について、評価は良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 9-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 9-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 18 年度から、新しい学科編成となっているが、その内容は、教育的観点から十分配慮されたものである。教員の配置も、学生数との対応に配慮されている。また、附属センター等との教育上の連携も良好であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育委員会によって重要事項が審議され、さらにファカルティ・ディベロップメント（FD）活動について、教育委員会内部に FD 専門委員会を設置するなどの責任体制が明確である。また、学生による授業評価アンケートを継続的に実施し、その結果に基づいて授業内容を点検し、それを公開しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学年間の配置、教養教育科目と専門教育科目のバランスなど、十分配慮がなされている。学生の理解度に差の大きい科目について、学力別クラス編成をするなど、工夫が認められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、農学の特性に合うカリキュラムを編成したり、自由科目の単位を認定するなど、学生の要望に応えようとする努力が窺える。編入学生や留学生を積極的に受け入れ、また、学生の留学を支援するなどの体制をとっており、その意図はある程度実現されている。伊万里はちがめプラン、蕨野の棚田支援、水まちマップ運動への参加、食育などによって地域へ貢献しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、堅実に必要な授業が設定されており、オフィスアワー等の工夫も見られる。学習指導法の工夫については、履修ガイダンス、研究室訪問、附属図書館ガイダンス、キャリア教育など、必要な配慮がなされている。インターンシップや単位互換制度は必ずしも順調に進展していないようだが、オフィスアワーを設定し、さらにチューター制度を導入して、学生と教員の接触の機会を広げようと努めている。講義の担当者の選定、受講者数を適正化するなどに工夫の様子が認められる。シラバスの作成と活用については、オンラインシラバスが用いられており、学生への配慮が認められるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度の導入など、高等教育についての近年の指導方法、評価方法の進歩に対応しようとする意思が認められる。主体的な学習を促す取組については、履修ガイダンス、研究室での教員の個人指導、学習スペースの確保、文献検索体制の整備など、必要な処置がとられている。成績と単位の実質化については、履修単位数の制限、補講の実施、履修状況に問題のある学生について、教員間の連絡体制を整備している。学力に差の生じやすい科目については、学力に応じた指導を行う配慮がされていること、成績に GPA 制度を導入しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、在学時・卒業時の状況に基づく教育の成果や効果では、卒業研究履修認定を行って、学力のチェック体制を取るなど、工夫

がされている。標準年限内の卒業率は 96.3%であり、教員免許、農業改良普及員等の各種資格を取得しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、成績評定平均値に関する規程の制定に基づく GPA 制度の導入、授業評価の厳格化等が進行中であり、また、学科改組後の学年進行中であるため、入学年度の異なる学生の学業成績を単純に比較できないが、優の修得率が高い。過去４年間の卒業率が、卒業研究履修認定を保留された学生を除くと 93%、認定保留者を含めても 81%であること、学生による授業評価でおおむね良好な評価を受けていること、授業評価の結果の利用等を通じて授業改善が行われているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職率は 97.9%であり、専門を活かした就職先を選択しており、教育が一定の成果を上げていることが窺えるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、アンケート調査等による卒業生に対する企業による評価は良好で、卒業生が好感をもって迎えられているといえる。特に、専門知識と能力に満足している企業が多い。外国語についての評価がやや厳しく、科学英語には配慮されているが、外国語教育は、提出された現況調査表の内容では、従来の手法を踏襲しているように見られる。また、職場環境への適応についても、多くの企業で適応しているとの評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 10-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 10-4

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学部で生物環境科学科が重視されているのに対して、大学院では、「環境」と明示しない教育研究分野があることを勘案すると、環境に対する教育研究分野が少ない。しかし、教員の業績評価、若い教員の大学院担当のための支援等に、一定の配慮がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育課程の編成や教育方法等の改善に係る重要事項は、各専攻から選出された教員で構成される大学院教育小委員会で審議され、具体的な方策等が関係教員に周知されている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）の立案には、専門の FD 委員が担当する FD 専門委員会が全学的な調整を図りつつ、また、農学部の FD 活動とも緊密に連携して活動を展開している。内容は、学生による授業評価の実施、調査結果の授業改善への活用、FD 講演会がある。それらの実績を踏まえて、農学的なカリキュラム・履修モデルの提案、教育目標の明確化、ティーチング・アシスタント（TA）報告書の義務化等が実施されている。また、教員による研究紹介も行われており、大学院生に有効な情報を提供するほか、教員の意思疎通にも役立っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、二つの専攻があり、それぞれが教育目的を達成するための教育課程を編成し、さらに平成 18 年度は、２専攻横断型のコア科目を設けたほか、専攻別に基礎教育科目、専門教育科目、特別演習に再編成している。修士論文の評価は、主査１名と副査２名以上として厳格化を図っている。また、指導教員が学生と相談して、２

年間の履修計画を立てること、２年間を通して行う「特別研究」、各講座の「演習科目」があり、さらに研究科必修の「研究科共通コア科目」、専攻必修の「基礎教育科目」等を配し、体系的な学習ができるように指導している。以上、大学院研究科として、基本的な事項を実行しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、大学院研究科として基本的な事項を実行している。外国の 16 の大学と大学間学術交流協定を結び、留学制度を設けている。少数ではあるが、大学支援機構の短期留学推進奨学金を得て留学している学生がいる。また、社会人向けの夜間開講科目、集中講義科目などを設け、社会的貢献を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各専攻の開講科目中、学生が所属する講座の特別研究及び指導教員の指導による授業科目を合わせて 30 単位以上を履修することとしている。また、各専攻で、履修モデルを示し学生の理解を深める努力をしている。生物生産学専攻では生産科学系、環境情報工学系、応用生物科学専攻では、生物工学講座、生物調節学講座、動物資源学講座の履修モデル、生物化学系では、生物機能化学講座の履修モデル、生物資源利用化学講座の履修モデルが示されている。多くの授業は、10 数名以下の少人数教育が実現し、対話・討論型授業やフィールド型授業が実施されている。また、オンラインシラバスの体制が構築されており、シラバスと実際の授業との関係を学生が授業評価を行う工夫をしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、演習科目に対話・討論型授業を取り入れ、またフィールド型授業を実施するなど工夫されている。また、研究では個別指導を中心に、必要な指導を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4.　学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、履修モデルは、学生を対象としたアンケートなどにより評価されている。また、成績を明確な形で評価し、かつ修了率が平成 19 年度は 95%と高いことは、教育の成果があるものと評価できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院生による授業評価を実施しており、評価は良好であるが、研究指導に対して評価する学生がある一方、適切でないとする学生も少なくないことから、複数の教員による指導体制を構築するなど、その改善に努力しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5.　進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修了生の進路を見ると、平成 19 年度の就職希望者に対する就職率は 100%であり、ほぼ専門教育の分野が活かせる職業に就職しており、教育の成果が評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職率が高く、また、就職先を教員が訪問し、聞きとり調査等を行って、良好な評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	文化教育学部・教育学研究科	研究 1-1
2.	経済学部・経済学研究科	研究 2-1
3.	医学部・医学系研究科	研究 3-1
4.	理工学部・工学系研究科	研究 4-1
5.	農学部・農学研究科	研究 5-1
6.	海洋エネルギー研究センター	研究 6-1

文化教育学部・教育学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 1-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 1-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の著書は 36 件（単著 14 件）、論文は 133 件（査読付論文は 58 件、論文の教員一名当たりの件数は 1.24 件）、芸術・競技活動は個展・展覧会への出品が 33 件、演奏活動等が 17 件であったことに加えて、同年度には学会賞受賞 1 件と学会発表 109 件のほかに、研究成果を生み出す基盤となる地域教育界との共同研究 10 件、附属学校園との共同研究 109 件、他大学教員との共同研究 55 件等の取組があった。さらに特許・実用新案の登録は 2 件であった。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択数は継続分を含めて 17 件で採択金額が 2,081 万円、新規分の採択率は 16.3%であった。その他の資金の受入れとしては、受託研究 1 件 230 万円、共同研究 1 件 20 万円があったことなどの相応な成果がある。

以上の点について、文化教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、文化教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、文化教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で成果を上げている。学術面では、卓越した研究業績はみられないものの、ヨーロッパ語系文学、東洋史、日本史、教科教育学、素粒子学等の分野で優れた成果を上げているほか、過去 4 年間に 17 件の学会賞を受賞している。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績はみられないが、日韓関係研究分野での優れた社会的貢献ならびに、学部横断的研究から生まれた国際文化学的研究、地域文化の豊かさを紹介する文学研究、音楽分野での演奏活動等が、研究と社会を結びつけるものとして評価できるなどの相応な成果がある。

以上の点について、文化教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、文化教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期

待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部・経済学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 2-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 2-2

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、佐賀大学経済学会叢書が年６回発行され、教員が研究を進めるための情報交換、討論の場となっている。アジア地域の研究者との研究交流としての日韓中国際シンポジウム、国際協働プロジェクト等が積極的に開催されている。研究資金の獲得に関しては、科学研究費補助金の採択は必ずしも多くないが、積極的に申請されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面においては基幹産業の管理や流通政策の分野さらに国際関係や理論研究において相応に成果を上げている。社会、経済、文化面においては、地元の歴史に関する資料集を編纂するといった、地域の課題に即した研究成果を上げているなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

Ⅱ　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部・医学系研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 3-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 3-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、発表論文数、学会発表数は相応の努力がなされている。インパクトファクター（IF）総点数は平成 17 年に減少しているが、平成 18 年度、平成 19 年度と盛り返している。研究資金の獲得状況については、文部科学省科学研究費補助金、厚生労働省科学研究費補助金、その他の助成金も相応の努力がなされている。寄附講座も平成 16 年度から平成 19 年度までの４年間で４件の受け入れがなされており、十分な努力がなされていることは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、医学部の特性として、学術面で優れた業績がみられる。学術面では、細胞生物学、分子生物学、遺伝学、神経科学、免疫学、がん、移植等、基礎的研究、応用研究、さらに地域包括医療の向上に関する研究等、社会面も含め、幅広く先端的、実質的な研究成果が生まれている。卓越した研究成果として、Nature Immunology に発表された myeloid cell における Toll-like receptor を介する自然免疫における adaptor protein CARD９の機能がある。本論文は、Nature signaling gateway の featured article June 2007 に選ばれている。また Circulation 誌の心臓 stent における CD34 陽性細胞の関与は臨床的にも再狭窄予防の観点から極めて重要である。さらに英国との共同研究で Nature 誌に発表された頭蓋計測値のばらつきを調べるという研究手法で、現生人類のアフリカ単一起源説を確証した研究は高く評価できることは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理工学部・工学系研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 4-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 4-2

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、基礎的分野として、数学、化学、物理学、情報学等の研究が行われ、地域や社会からの要請に応える研究分野として、機械工学、電気電子工学、土木工学等の研究が行われている。一名当りの論文・著書等は年平均約４件であり、質の高い研究成果が多く生み出されている。研究資金の獲得状況については、過去４年間の科学研究費補助金の採択率は 30%程度である。競争的外部資金は年度によって変動はあるが、地方自治体からの資金が獲得されている。さらに、共同研究や受託研究等の外部資金を多く獲得しているなどの相応な成果である。

以上の点について、理工学部・工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理工学部・工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、理工融合の基本理念に即した研究が活発に行われ、国内外の学会から論文賞を受賞、レベルの高い学術雑誌への掲載、招待講演を行った研究成果が多数ある。社会、経済、文化面では、研究成果や特許が実用化に至った研究業績があり、大規模ネットワークの構築、数学や情報教育のための新しい手法の開発・運用等社会に有用な研究成果を生みだしているなどの相応な成果である。

以上の点について、理工学部・工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、理工学部・工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学部・農学研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 5-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 5-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均原著論文は、1.4 件である。学会での招待講演も多く、国外でも 4 年間に 38 の招待講演がある。特許の出願も 4 年間で 15 件を数える。学長裁量経費による共同研究「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」も、一定の成果を上げている。特に水準の高い研究分野については、高い評価を受けているジャーナルに論文が掲載されるなど優れた成果を上げており、研究活動に強い意欲をもっている。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度科学研究費補助金の採択数（採択金額）は、19 件（4,147 万円）であり、その他競争的研究資金では農林水産省、文部科学省から受け入れていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、生物学の分野における基礎研究で、アケビの雌雄異花に、雌機能に適応度コストをもたらす性的干渉を避ける機能があることを示し、国際的な評価を受けている。昆虫のサイトカインの研究は、特に研究水準が高く、日本応用動物昆虫学会賞を受賞している。その他、糖鎖生物学、マメ科の木本の共生系に関する解析などの評価も高い。農学分野の基礎的研究では、「ベトナムのシャロットの遺伝資源としての評価」は高く評価され、園芸学会賞年間優秀論文賞を受賞している。また、イネのイモチ病菌の全テロメア領域の塩基配列の解読の評価も高い。さらに、野菜類の病害ウイルスであるカブモザイクウイルスに関する一連の研究の評価も高い。食品科学・栄養学分野の基礎的・応用的研究では、青果物のポリフェノール酸化酵素に関する一連の研究が、日本食品保蔵科学会学会賞を受賞している。キトサン分解酵素の研究は、糖鎖工学分野に

おいて高い評価を受けている。共役リノール酸に関する研究では、日本油化学会年会ヤングフェロー賞、日本農芸化学会西日本支部奨励賞、日本栄養・食糧学会賞などを受賞している。特に水準の高い研究分野（植物病理学、昆虫の生化学、栄養生化学分野など）については、高い評価のジャーナルに論文が掲載され、また、学会賞を受けていることなどの点で、研究成果の状況は良好と判断される。社会、経済、文化面では、地域・社会の要請に基づく研究として、農薬を使わない塩味のする清浄野菜の栽培・利用法で成果を上げている。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

海洋エネルギー研究センター

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 6-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 6-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、当該センターは、専任教員10 名で、２部門と８分野を構成しており、教員一名当たりの原著論文発表数は、法人化後の４年間で約 4.3 件と多いことをはじめとして活発な研究活動を実施している。研究資金の獲得状況について、科学研究費補助金は法人化後の４年間で 890 万円を得ており、21 世紀 COE プログラムでは平成 16 年度から平成 18 年度の３年間で約 1 億 5,200 万の資金を得た。また、法人化後の４年間で民間企業との共同研究を 24 件実施し、総額約 7,500 万円受けたほか、受託研究は 11 件実施し、総額約 3,800 万円受けており、奨学寄附金は 17 件、総額約 1,400 万円を受けているなど、活発な研究活動が展開されていることなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、研究募集は、共同研究 A、特定研究及び随時受入れの共同研究 B の３種類に分け、研究の方向性を明確化している。また、年平均 30 件程度の共同研究を受け入れるなど、共同研究を推進し、スタッフ及び研究テーマの充実により全国共同利用施設へと進展していることなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、海洋エネルギー研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、海洋エネルギー研究センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した業績として、論文「Ultra High critical heat flux during forced flow boiling heat transfer with an impinging jetJournal of Heat Transfer, Transaction of ASME, 125, (2003), pp.1038-1045.」が平成 16 年に、Best Paper Award など数々の賞を受賞していることが上げられる。その他、アンモニア水溶液へのアンモニア蒸気の吸収量と物質拡散流束等に関する研究業績などの相応な成果があることから、期待される

水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の成果の状況」について、共同研究終了後、全ての研究者が共同研究の成果報告書を提出し、共同研究実施者の半数程度がその成果を共同研究成果発表会において発表しており、継続研究の場合は、過去に実施された共同研究での成果を基に審査・採択を行っていることなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、海洋エネルギー研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、海洋エネルギー研究センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は４件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。